

6. まとめ

平成16年度中寺廃寺跡発掘調査成果をもとに、各テラスに所在した建物の検討を行う。

第3テラスは心礎石を伴う礎石配置より塔跡であると考えられる。塔の上部構造を支えるために、礎石を岩盤上や堅固に造成された盛土上に据えている。瓦が未出土のため、屋根は樹木の皮や板等により葺かれていたと考えられる。塔の築造時期は心礎石下部遺構出土の遺物より10世紀前半と考えられる。周辺より出土した須恵器転用硯より中寺廃寺に識字層がいたことが確認できる。

第2テラスは平地寺院の伽藍配置と同様に建物の正面を避けて塔が立地することから、塔より上位の建物が存在したと考えられる。また土師器坏は集中的な出土より、灯明皿等の建物内で使用した仏具の可能性があり、鉄釘の集中的な出土、懸垂金具・かすがいの出土からは、仏像を安置する須弥壇等の屋内木造施設の存在が想定される。以上により、第2テラスは仏堂跡と考えられる。塔跡と同様に瓦が未出土のため、屋根は樹木の皮や板等により葺かれていたと考えられる。出土遺物の時期より存続期間は10～11世紀であり、途中で掘立柱建物から礎石建物へと建替えられている。掘立柱建物に関しては桁行中央の柱間が他に比べ広いことから、建物桁行中央に両開きの扉などの上部構造が存在した可能性がある。

第2テラスに所在した建物の面積は狭いため、仏事などを行う際には建物前面の緩斜面を利用したと考えられる。山岸常人は平安時代に内陣と礼拝という性格の異なった空間を一つの建物の内部に併存させる中世的な仏堂の空間構成が創出されるとするが、中寺廃寺跡第2テラスの仏堂は内陣のみで構成されるため、古代的な仏堂の様式を留めると考えられる。

第1テラスに所在した建物は、塔・仏堂の背後に立地すること、掘立柱建物であること、塔・仏堂と方位がほぼ一致することより、僧房などの生活遺構が立地すると考えられるが、確実な遺構を検出していないため、今後の調査成果に期待したい。

以上、今年度調査成果により中寺廃寺跡A地区は^{あごなかでら}字中寺の中心に位置し、仏堂跡・塔跡を有する中寺廃寺跡の中心的な地区である事を確認した。

次に中寺廃寺跡A～D地区を含めた中寺廃寺跡の全体像について考察したい。字中寺の範囲内に中心のA地区を囲みB地区・C地区が立地する状況からは、A～C地区が同時に並存し、それぞれが有機的な関係で結ばれていと推定される。また、文献調査の成果により、中寺廃寺は近世段階ですでに廃絶しており、寺の名称不明であったが、その位置については現在のD地区の位置に所在したと伝承されていたと想定される。昭和59年度調査において中世前半～近世にかけての遺物が表採されていることと総合すると、D地区は、A～C地区の継続期間中もしくは廃絶後に寺院が建造され、近世に継続していた地点である可能性がある。

中寺廃寺跡の調査はまだ始まったばかりであり、今後町民の参加を得てさまざまな視点から調査を行って行きたいと考えている。発掘調査成果に加え、周辺の文化財や社寺との関係も視野に入れながら調査を進め、中寺廃寺跡の歴史的な位置を抽出してゆきたい。

参考文献

- 伊沢肇一他1980『尾ノ背廃寺跡発掘調査概要（I）』仲南町教育委員会
- 上原真人他2002『佛教藝術265 特集山岳寺院の考古学的調査西日本編』佛教藝術学会
- 後藤健一他1997『湖西市文化財調査報告 第37集 大知波峠廃寺跡』湖西市教育委員会
- 進藤政量1799『讃岐廻遊記』（1943『香川叢書』第3巻所収）
- 杉本良2003『北上市埋蔵文化財調査報告 第55集 国見山廃寺跡』北上市埋蔵文化財センター
- 中西昇1988『県道府中・琴南線改良工事に伴う 備中寺遺跡発掘調査報告書一付・中寺廃寺確認調査概報一』琴南町教育委員会
- 松本和彦他2004『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第48冊 大山遺跡 中谷遺跡 楠谷遺跡』（財）香川県埋蔵文化財調査センター他
- 山岸常人2000『中世寺院社会と仏堂』塙書房
- 山元敏裕2003『史跡名勝天然記念物屋島基礎調査事業調査報告書 I 史跡名勝天然記念物屋島』高松市教育委員会
- 1976『仏教考古学講座 第1巻』雄山閣
- 1986『琴南町誌』琴南町
- 1995『概説 中世の土器・陶磁器』中世土器研究会
- 2003『香川県中世城館跡詳細分布調査報告』香川県教育委員会

第2表 中寺廃寺跡出土遺物観察表(1) 土器

図版 番号	種別・器種	出土地点	法量 (cm)		残存率	焼成	胎土	色調・内面	色調・外面	備考
			口径	底径 器高						
15-1	須恵器・椀	第3テラス 流土		7.3	底部1/8	堅緻	精良、微砂粒	灰色5Y5/1	灰色5Y5/1	15-2と同一固体の可能性あり
15-2	須恵器・椀	第3テラス 流土		7.5	底部2/8	堅緻	精良、微砂粒	灰色N6/0	黄灰色4/1	15-1と同一固体の可能性あり
15-3	黒色土器・椀	第3テラス 盛土直上		9.7	底部1/8	やや軟	精良、微砂粒	黒色YR2/1	褐色5YR7/8	内黒焼成
15-4	土師器・坏	第3テラス 流土下位		6.1	底部1/8	良好	精良、角閃石・微砂粒	にぶい赤褐色5YR5/4	にぶい赤褐色5YR5/4	
15-5	土師器・坏	第3テラス 流土中位		7.0	底部2/8	良好	精良、微砂粒	明黄褐色2.5Y7/6	浅黄色2.5Y7/4	
15-6	土師器・坏	第3テラス 流土	9.8	8.0	1/8	良好	精良、石英・微砂粒	浅黄褐色10YR8/4	浅黄褐色10YR8/4	
15-7	須恵器・鉢	第3テラス 流土	19.6		口縁部1/8	堅緻	精良、微砂粒	灰色10Y5/1	灰色10Y4/1	
15-8	土師器・壺	第3テラス 流土		10.1	底部1/8	良好	精良、微砂粒	にぶい黄褐色10YR5/4	黄褐色2.5Y5/3	
15-9	土師器・壺	第3テラス 地山直上		10.4	底部1/8	良好	精良、角閃石・微砂粒	にぶい赤褐色5YR5/4	灰色10Y5/1	
15-10	土師器・壺	第3テラス 流土			胴部1/8	良好	精良、微砂粒	黄褐色2.5Y5/3	にぶい黄色2.5Y6/3	
15-11	須恵器・転用硯	第3テラス 流土			胴部破片	堅緻	精良、微砂粒	オリーブ灰色2.5GY6/1	灰色N5/0	甕破片転用硯
16-1	土師器・鉢	第3テラス 心礎石下部遺構	13.2	7.6	6/8	良好	精良、微砂粒	褐灰色10YR5/1	浅黄褐色10YR8/3	
16-2	土師器・長胴甕	第4テラス 心礎石下部遺構	33.4	6.6	ほぼ完存	良好	精良、石英・微砂粒	黄灰色2.5Y5/1	浅黄色2.5Y7/4	
16-3	土師器・壺	第5テラス 心礎石下部遺構	11.4	12.2	ほぼ完存	良好	精良、微砂粒	赤褐色2.5YR4/6	赤褐色2.5YR4/8	
16-4	土師器・壺	第6テラス 心礎石下部遺構	11.4	12.2	ほぼ完存	良好	精良、微砂粒	赤褐色2.5YR4/6	赤褐色2.5YR4/8	
16-5	土師器・壺	第7テラス 心礎石下部遺構	11.8	12.0	ほぼ完存	良好	精良、微砂粒	赤褐色2.5YR4/6	赤褐色2.5YR4/8	
16-6	土師器・壺	第8テラス 心礎石下部遺構	12.2	12.4	ほぼ完存	良好	精良、微砂粒	赤褐色2.5YR4/6	赤褐色2.5YR4/8	
16-7	土師器・壺	第9テラス 心礎石下部遺構	10.7	11.0	ほぼ完存	良好	精良、微砂粒	赤褐色2.5YR4/6	赤褐色2.5YR4/8	底部にへう記号
18-1	土師器・坏	第2テラス 整地土直上		5.9	底部1/8	良好	精良、石英・微砂粒	浅黄色2.5Y7/4	浅黄色2.5Y7/4	内面に黒色付着物
18-2	土師器・坏	第2テラス 整地土直上		5.9	底部1/8	良好	精良、石英・微砂粒	にぶい黄褐色10YR5/3	にぶい黄褐色10YR7/4	内面に黒色付着物
18-3	土師器・坏	第2テラス 整地土直上	10.2	7.8	1/8	良好	精良、角閃石・微砂粒	にぶい黄色2.5Y6/4	にぶい黄褐色10YR6/3	
18-4	土師器・坏	第2テラス 整地土直上	10.1	7.8	2.0	良好	精良、角閃石・微砂粒	黄褐色2.5Y5/3	にぶい黄褐色10YR5/3	
18-5	土師器・坏	第2テラス 整地土直上		7.9	底部1/8	良好	精良、石英・微砂粒	にぶい黄色2.5Y6/3	にぶい黄色2.5Y6/3	
18-6	土師器・坏	第2テラス 整地土直上	10.3	8.4	3/8	良好	精良、角閃石・微砂粒	にぶい黄色2.5Y6/4	にぶい黄色2.5Y6/4	内面に黒色付着物
18-7	土師器・坏	第2テラス 整地土直上	11.1	7.8	2.0	良好	精良、石英・微砂粒	黒褐色2.5Y3/2	にぶい黄褐色10YR4/3	内面に黒色・外面に赤色付着物
18-8	土師器・坏	第2テラス 整地土直上		6.4	底部4/8	やや軟	精良、微砂粒	にぶい黄色2.5Y6/4	にぶい黄色2.5Y6/3	内面に黒色付着物
18-9	土師器・坏	第2テラス 整地土直上		8.4	底部4/8	やや軟	精良、微砂粒	浅黄色2.5Y7/4	にぶい黄色2.5Y6/4	内面に黒色付着物

図版 番号	種別・器種	出土地点	法量 (cm)		残存率	焼成	胎土	色調・内面	色調・外面	備考
			口径	底径						
18-10	土師器・坏	第2テラス 整地土直上			底部1/8	良好	精良、角閃石・微砂粒	にぶい黄色2.5Y6/3	黄褐色2.5Y5/3	内面に黒色付着物
18-11	土師器・坏	第2テラス 流土下位		7.3	底部2/8	良好	精良、 精良、微砂粒	にぶい黄褐色10YR5/4	にぶい黄褐色10YR6/4	
18-12	土師器・坏	第2テラス 流土		6.9	4/8	やや軟	精良、微砂粒	にぶい黄褐色10YR6/4	にぶい黄褐色10YR6/4	
18-13	土師器・坏	第2テラス 流土下位		6.0	2/8	良好	精良、微砂粒	にぶい黄褐色10YR6/4	にぶい黄褐色10YR6/4	内面に黒色付着物
18-14	土師器・坏	第2テラス 流土下位		5.3	底部1/8	良好	精良、石英・微砂粒	にぶい黄褐色10YR6/4	にぶい黄褐色10YR6/4	内面に黒色付着物
18-15	土師器・坏	第2テラス 流土下位		5.7	底部1/8	良好	精良、石英・微砂粒	にぶい黄褐色10YR6/4	にぶい黄褐色10YR7/4	内面に黒色付着物
18-16	土師器・坏	第2テラス 流土下位		7.0	底部8/8	良好	精良、石英・微砂粒	にぶい黄褐色10YR6/4	にぶい黄褐色10YR6/3	内面に黒色付着物
18-17	土師器・坏	第2テラス 流土下位		7.8	底部1/8	良好	精良、角閃石・微砂粒	にぶい黄褐色10YR6/4	にぶい黄褐色10YR6/4	内面に黒色付着物
18-18	土師器・坏	第2テラス 流土下位	10.6	7.1	4/8	良好	精良、角閃石・微砂粒	にぶい黄色2.5Y6/3	にぶい黄褐色10YR6/4	内面口縁部に黒色付着物
18-19	土師器・坏	第2テラス 流土上～下位		7.5	2/8	良好	精良、石英・微砂粒	にぶい黄褐色10YR4/3	にぶい黄褐色10YR4/3	内外面に黒色付着物
18-20	土師器・坏	第2テラス 流土上位		8.5	底部2/8	良好	精良、石英・微砂粒	浅黄色2.5Y7/4	浅黄色2.5Y7/4	内面に黒色付着物
18-21	土師器・坏	第2テラス 流土中位		6.7	1/8	良好	精良、微砂粒	にぶい黄褐色10YR7/4	にぶい黄褐色10YR7/4	
18-22	土師器・坏	第2テラス 流土下位	10.0	6.4	3/8	良好	精良、微砂粒	にぶい橙色2.5YR6/4	にぶい橙色2.5YR6/3	内面に黒色付着物
18-23	土師器・坏	第2テラス 流土中位		7.3	底部3/8	良好	精良、石英・微砂粒	橙色7.5YR6/6	黒褐色7.5YR3/1	内面に黒色付着物
18-24	土師器・坏	第2テラス 流土下位		6.7	底部1/8	良好	精良、微砂粒	にぶい黄色2.5Y6/4	にぶい黄色2.5Y6/4	
18-25	土師器	第2テラス 流土上位			破片	良好	精良、石英・微砂粒	灰黄色2.5Y6/2	灰黄色2.5Y6/2	内外面に黒色付着物
18-26	土師器・坏	第2テラス南側緩斜面 旧表土		4.9	底部1/8	良好	精良、微砂粒	赤褐色5YR4/8	赤褐色5YR4/8	
18-27	土師器・坏	第2テラス南側緩斜面 盛土			底部1/8	良好	精良、微砂粒	赤褐色5YR4/8	赤褐色5YR4/8	

第3表 中寺廃寺跡出土遺物観察表(2) 鉄製品

図版 番号	種別	出土地点	法量 (cm)		残存率	材質	X線写真観察所見	色調・表面	色調・断面	備考
			残存長	最大幅						
15-12	鉄釘	第3テラス 流土中位	11.5	1.3	1.0	鉄	軸が腐食し亀裂が入る	橙色7.5YR6/8	黒色7.5YR2/1	頭から軸にかけてのラインが曲線的
18-28	鉄釘	第2テラス 腐植土	12.0	0.9	0.8	鉄	全体が良好に残存	橙色7.5YR6/8	黒色7.5YR2/1	頭から軸にかけてのラインが直線的
18-29	懸垂金具	第2テラス 整地土直上	13.9	0.5	0.3	鉄	一端が輪状に曲がる	橙色7.5YR6/8	暗褐色7.5YR3/4	
18-30	かすがい	第2テラス 整地土直上	4.9	0.9	0.3	鉄	直角に屈曲	橙色7.5YR6/8	暗褐色7.5YR3/4	

※色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修「新版標準土色帳1994年版度版」を参照した。

※残存率は原則として完形品に対する実物の割合を8分割で記載し、それ以外についてはそれぞれ個別に記載した。



A) 中寺廃寺跡遠景 (南東より)



B) 第3テラス調査着手前状況 (西より)



A) 第3テラス3-b~3-b'断面 礎石以西(南より)



B) 第3テラス3-b~3-b'断面 礎石以东(南より)



A) 第3テラス3-c~3-c'断面 礎石以南(西より)



B) 第3テラス土壇南側法面検出状況(南東より)



A) 第3テラス3-c~3-c'断面 平坦地北端(西より)



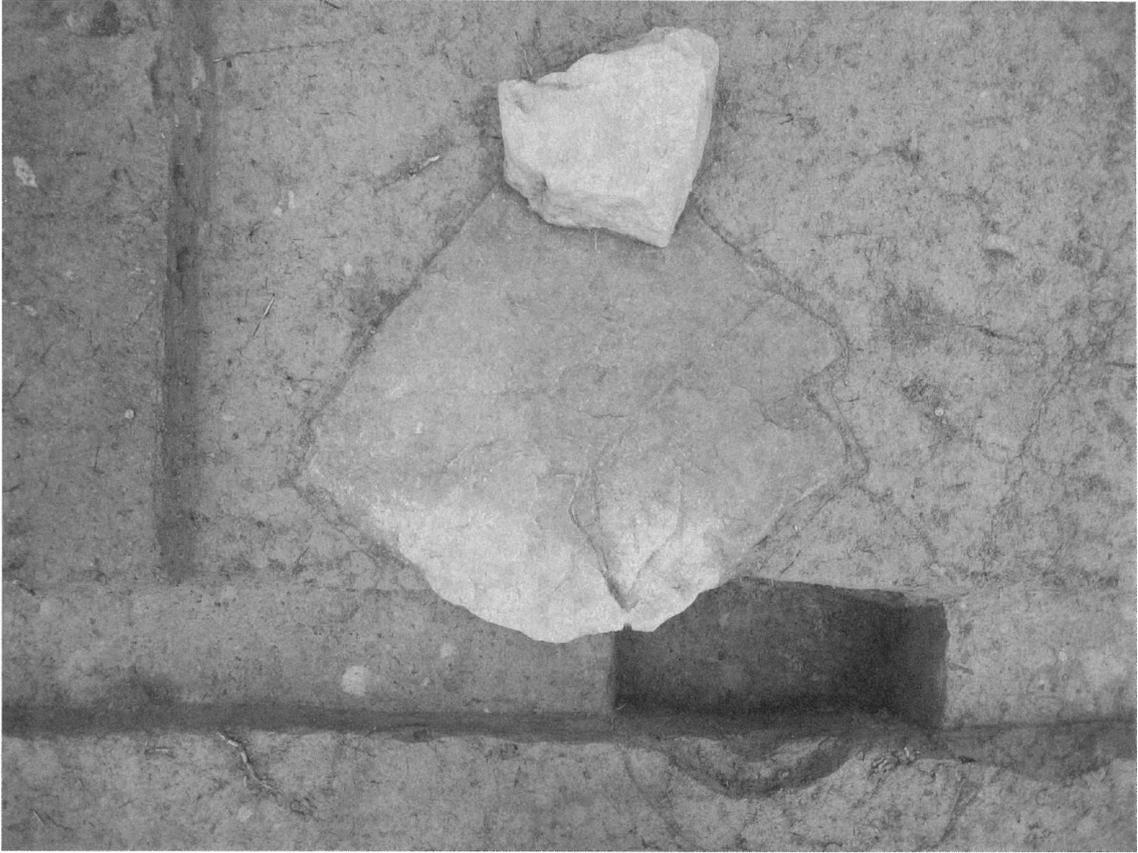
B) 第3テラス溝状遺構完掘状況 礎石以西(南西より)



A) 第2テラス調査着手前状況 (南東より)



B) 第2テラス掘立柱建物跡・礎石建物跡検出状況 (北西より)



A) 第2テラス掘立柱建物跡柱穴と礎石建物跡礎石の切りあい(上が北)



B) 第2テラス2-a~2-a'断面 東から2番目の柱穴(南より)



A) 第2テラス2-c~2-c'断面 平坦地北端(西より)



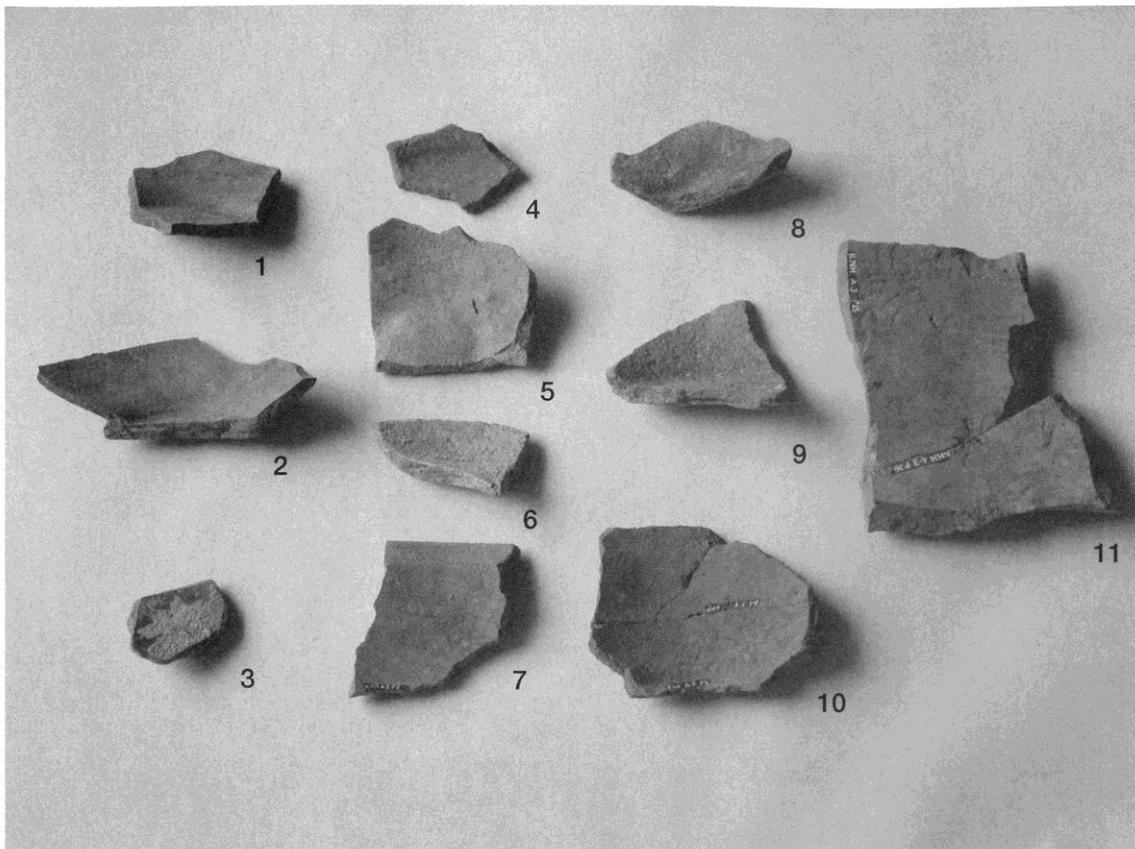
B) 第2テラス南側の緩斜面(南東より)



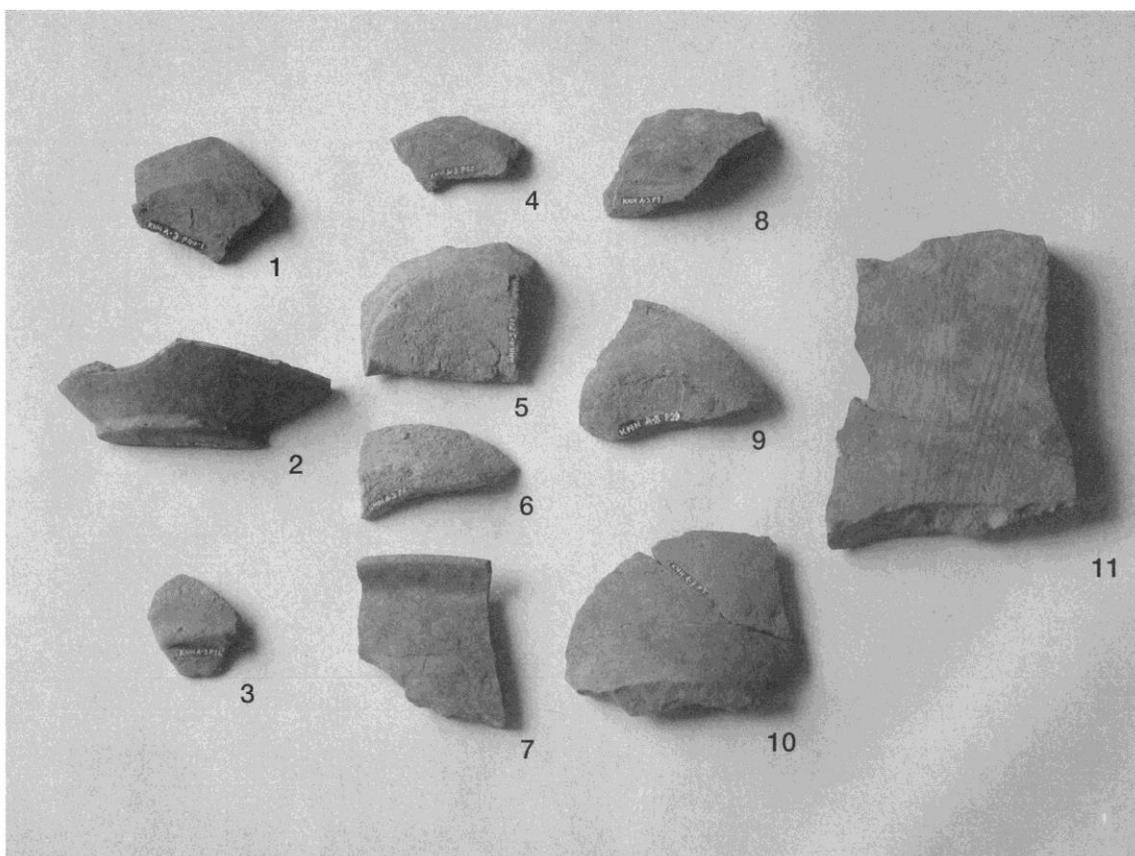
A) 第1テラス調査着手前状況 (南より)



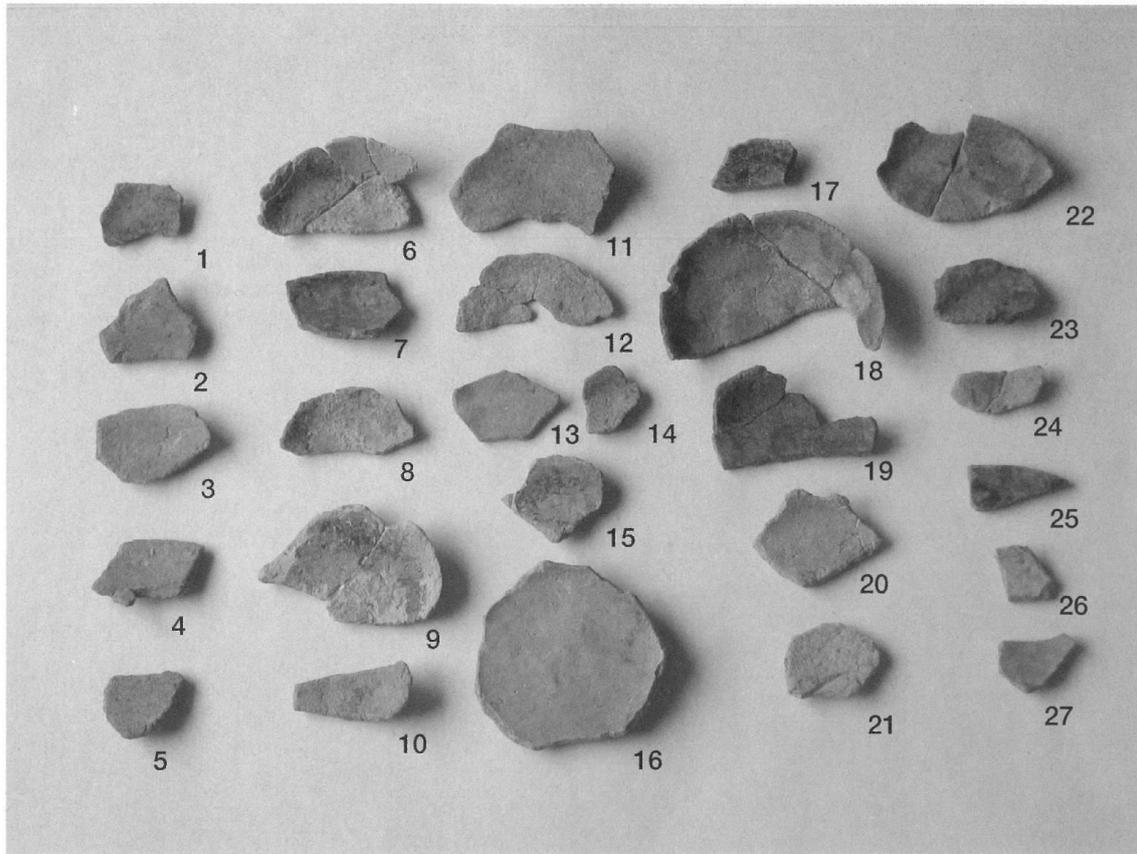
B) 第1テラス完掘状況 (東より)



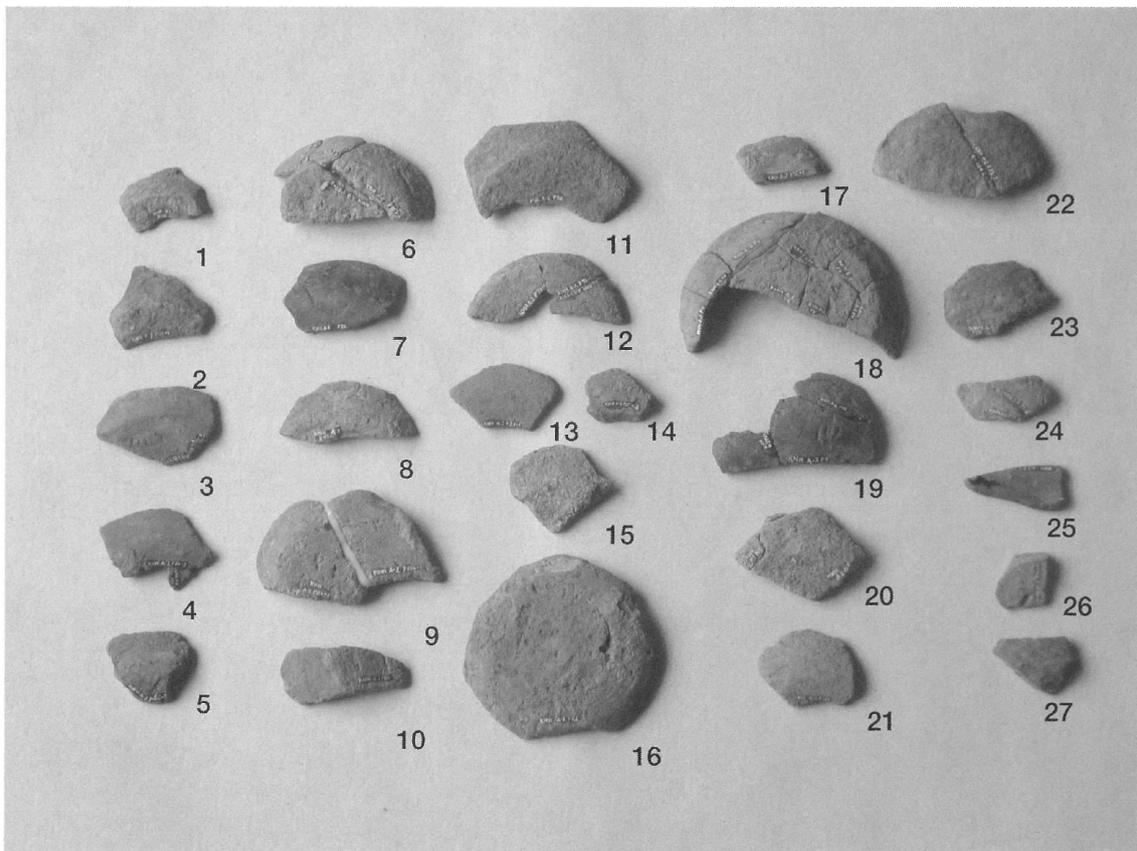
A) 第3テラス出土遺物 (内面)



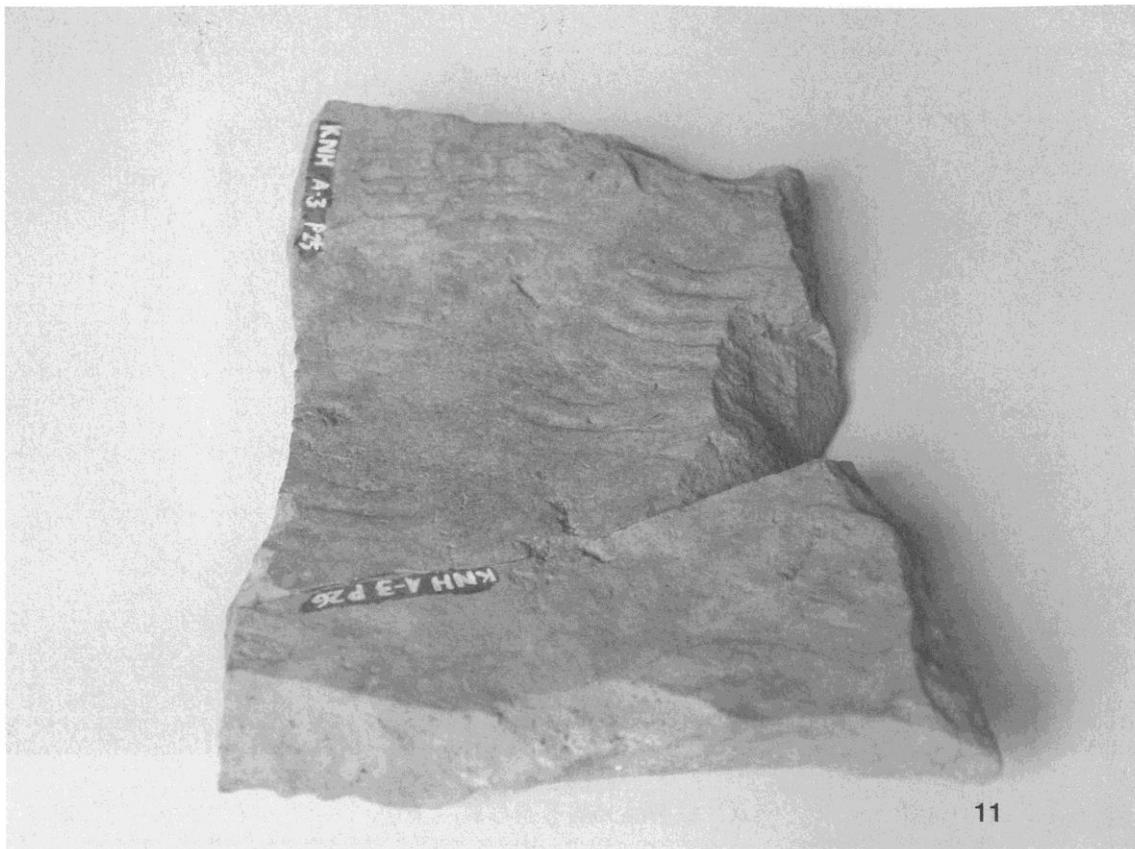
B) 第3テラス出土遺物 (外面)



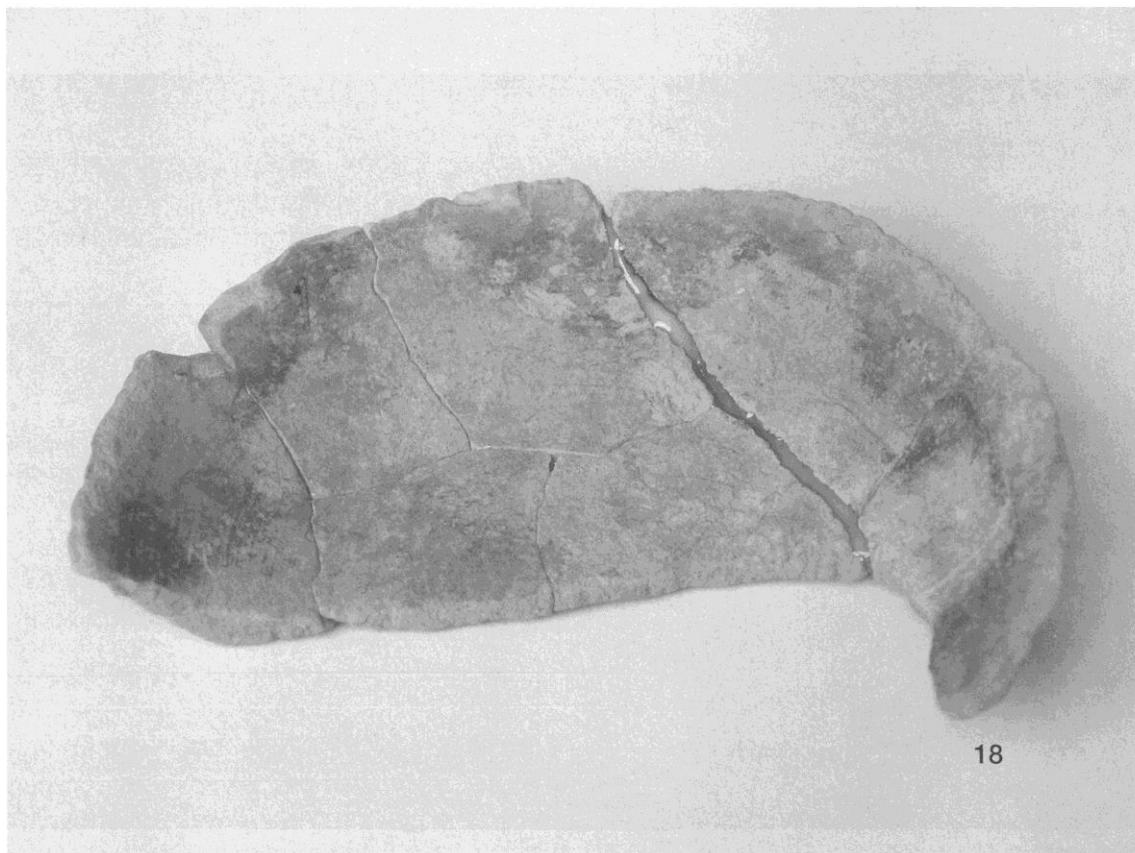
A) 第2テラス出土遺物 (内面)



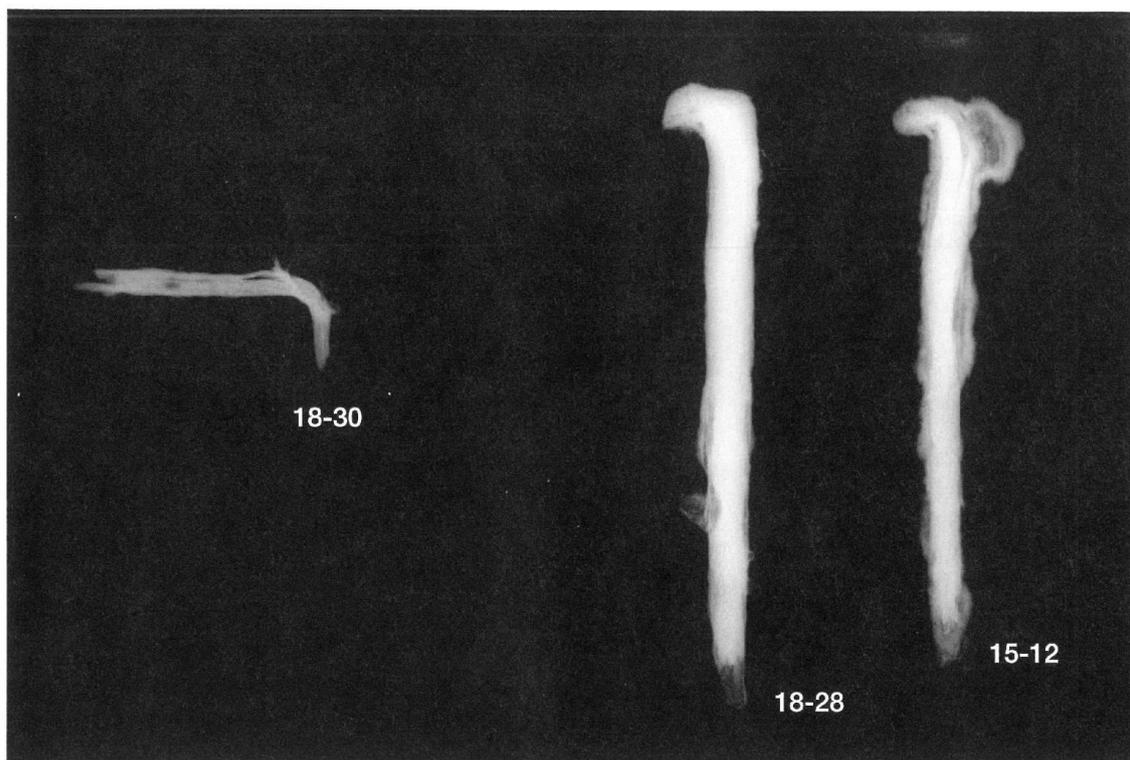
B) 第2テラス出土遺物 (外面)



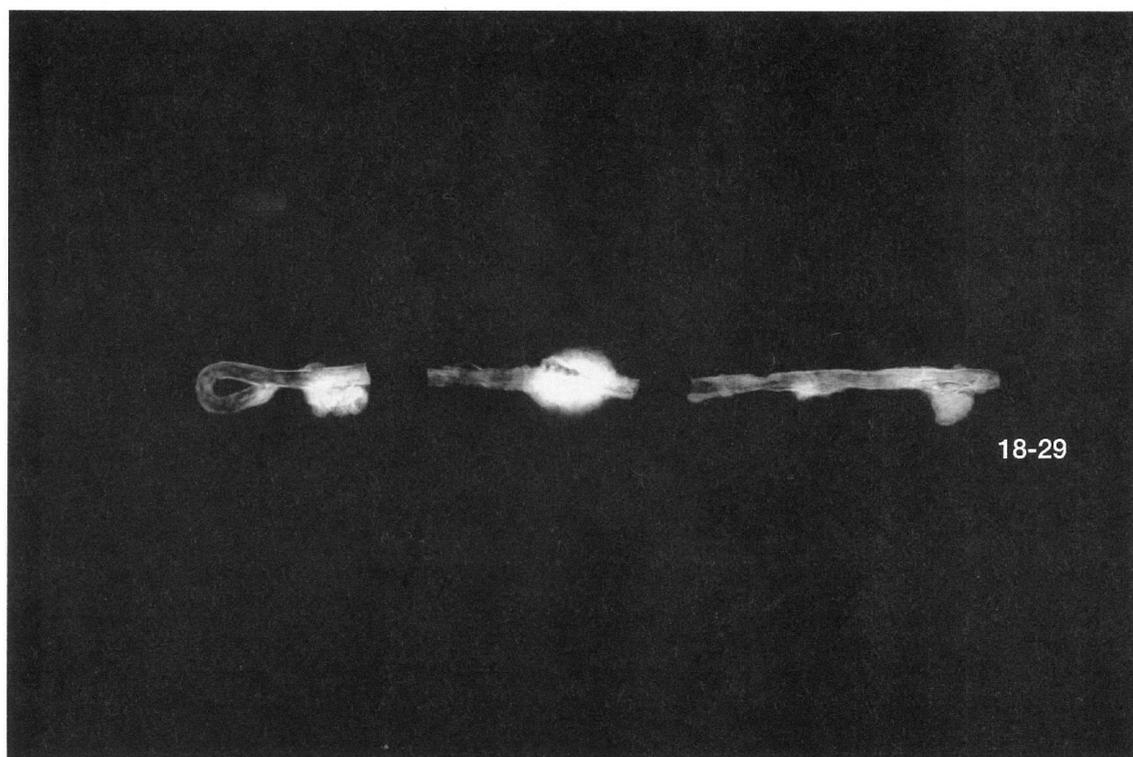
A) 第3テラス出土須恵器転用硯



B) 第2テラス出土土師器坏内面



A) 鉄製品 X線透過写真 (1)



B) 鉄製品 X線透過写真 (2)

報告書抄録

ふりがな	なかでらはいじあと へいせい16ねんど							
書名	中寺廃寺跡 平成16年度							
副書名								
巻次	2005.3							
シリーズ名	琴南町内遺跡発掘調査報告書							
シリーズ番号	第1集							
編著者名	琴南町教育委員会事務局 主事 加納裕之							
編集機関	琴南町教育委員会							
所在地	〒766-0202 香川県仲多度郡琴南町中通875番地 TEL (0877) 85-2221							
発行機関	琴南町教育委員会							
発行年月日	2005年3月31日							
総頁数	目次等	本文	図版	表	挿図枚数	写真枚数		
59頁	5頁	40頁	14頁	3枚	18枚	31枚		
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
なかでらはいじあと 中寺廃寺跡	かがわけん 香川県 なかたどくぐん 仲多度郡 ことなみちよう 琴南町 そうだ 造田 3469-2	37401		34度 7分 19秒	133度 55分 3秒	2004.8.9 ~ 2004.11.30	300m ²	確認調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
中寺廃寺跡	山岳寺院	平安	掘立柱建物跡、 礎石建物跡、塔跡 心礎、溝状遺構、 柱穴	土師器、黒色土器、 須恵器、須恵器転用 硯、鉄釘、鉄製品		山岳仏教草創期の山 岳寺院中心地区にお ける調査		
要約	中寺廃寺跡は集落から離れた標高675m~730mの高所に立地する。創建時期は山岳仏教草創期である10世紀に遡る。建物跡は3~6棟から構成される4地区に分かれ、約1000mの範囲に遺構が展開している。それぞれの地区においては墓と考えられる集石や、地面に露出した礎石などが認められ、各地区に性格の異なる伽藍が展開している。今年度は伽藍の中心的な施設である塔跡・仏堂跡などを調査した。塔跡においては重量のある塔を支えた平坦地の地下構造を確認し、須恵器転用硯などが出土した。仏堂跡においては掘立柱建物跡と礎石建物跡を確認し、漆が塗布された土師器坏や、鉄釘や金具が出土した。これらの成果により、山岳仏教草創期における地方山岳寺院の様相が明らかになりつつある。							

琴南町内遺跡発掘調査報告書 第1集

中 寺 廃 寺 跡

平成16年度

編集・発行：琴南町教育委員会

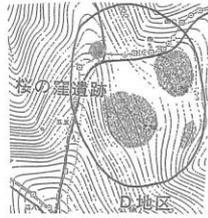
※題字は金澤正親氏による

印 刷：(株)中央印刷所

発行年月日：平成17年3月31日

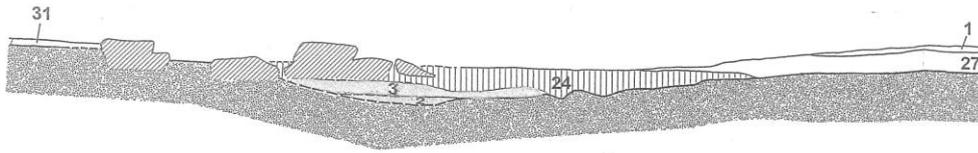
下記の通り訂正を願います。

4頁 第3図中寺廃寺平坦地分布図 桜の窪遺跡 D地区 平坦地の追加

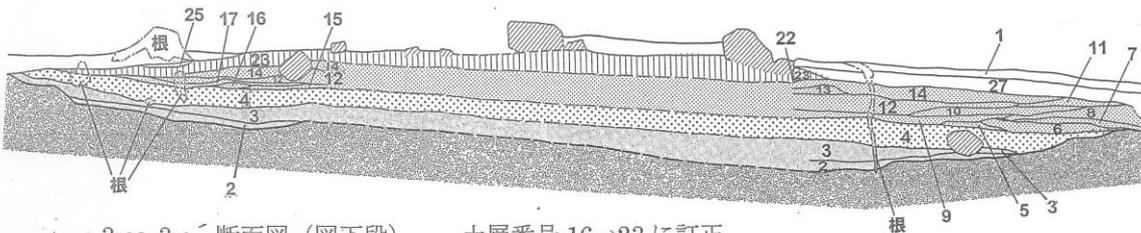


13~14頁 第7図 第3テラス断面図(1)

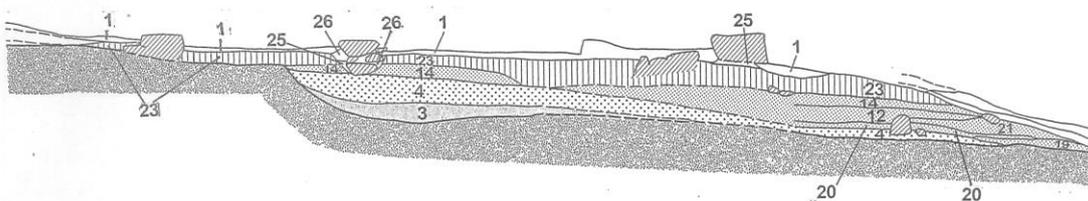
・3-a~3-a' 断面図(図上段) 土層番号3のトーン訂正



・3-b~3-b' 断面図(図中段)



・3-c~3-c' 断面図(図下段) 土層番号16→23に訂正



19~20頁 第10図 第2テラス断面図(1) 土層注記トーンの訂正

- 6. 濁灰黄色シルト(3番目の盛土)
φ1.0~2.0cmの淡黄色シルト地山ブロック多混
φ1.0~3.0cmの角礫極少混
- 7. 濁淡赤黄色シルト(3番目の盛土)
淡灰黄色砂質土混
- 8. 濁淡灰黄色砂質土(3番目の盛土)
淡赤黄色シルト混
- 9. 淡赤黄色シルト(流土)
φ1.5~2.0cmの礫少混
- 10. 濁灰黄色砂質土(2番目の盛土)
φ0.5~1.0cmの炭粒混

22頁 第11図 第2テラス断面図(2) 土層注記トーンの訂正

- 2. 濁淡赤黄色シルト(3番目の盛土)
淡灰黄色砂質土混
- 3. 濁淡灰黄色砂質土(3番目の盛土)
淡赤黄色シルト混
- 4. 濁灰黄色砂質土(2番目の盛土)
φ0.5~1.0cmの炭粒混
- 5. 淡灰黄色シルト(2番目の盛土)
- 6. 濁灰黄色シルト(2番目の盛土)
φ0.3~0.7cmの炭粒多混
- 7. 濁灰黄色砂質土(1番目の盛土)
淡赤黄色シルト混
- 8. 濁淡灰黄色シルト(1番目の盛土)
φ3.0~6.0cmの淡灰黄色シルト地山ブロック多混
- 9. 濁灰黄色シルト(1番目の盛土)
φ0.1~0.3cmの炭粒少混